

2022年12月2日

報道関係各位

大和ハウス工業株式会社
太平洋マテリアル株式会社

■建設現場における働き方改革

**全国の商業施設および事業施設の建設現場において
冬期の床のコンクリート仕上げ時間を約3割削減**

大和ハウス工業株式会社（本社：大阪府大阪市、社長：芳井 敬一、以下「大和ハウス工業」）と太平洋マテリアル株式会社（本社：東京都北区、社長：江上 一郎、以下「太平洋マテリアル」）は、大和ハウス工業の全国^{※1}の商業施設および事業施設の建設現場において、冬期^{※2}の床のコンクリート仕上げ時間^{※3}を約3割削減する工法を順次導入します。

※1. 冬期における1日の平均気温が10℃より高い地域（主に九州・沖縄地域）を除く。

※2. 12月頃～3月頃。

※3. コンクリートを流し込んだ後、コンクリートを固めて、表面を滑らかに仕上げるために要する時間。



【実証を行った施工現場（埼玉県さいたま市）】

総務省の2021年の労働力調査によると、建設業就業者数は1997年のピーク時の685万人から2021年には482万人と約30%減少しています。また国土交通省によると^{※4}、2020年度の建設業における年間の総実労働時間は、全産業と比較し約1.2倍となっています。建設現場において、長時間労働の常態化や効率化が進んでいない作業が多く、就業環境の改善が課題となっています。

そこで両社は、季節により作業時間が大幅に変動する床のコンクリートの仕上げ時間に着目。2022年2月に大和ハウス工業の物流施設の建設現場^{※5}の一部の床において、コンクリートの硬化を促進する混和材料^{※6}「太平洋 N-EX neo（ネックス ネオ）」^{※7}を使用する実証を行いました。結果、一般的なコンクリートと比較し、仕上げ時間を約10時間から約7時間と、約3割短縮する工法を開発しました。

本日（2022年12月2日）より、本工法を全国^{※1}の商業施設および事業施設の建設現場に導入することで、深夜作業の削減や、床のコンクリートの品質向上および安定化に取り組みます。

引き続き両社は、建設現場での働き方改革を進めるとともに、大和ハウス工業は熟練工のノウハウを可視化するため、床のコンクリートの性能値を含む施工データを数値化し、既に現場に導入している「コンクリート床仕上げロボット」に組み入れることで、省人化の促進や生産性の向上、品質の均一化など建設現場における DX を促進します。太平洋マテリアルは、2023 年 10 月頃より「太平洋 N-EX neo」の一般販売を開始するとともに、コンクリートの低炭素化・脱炭素化に向け、環境配慮型コンクリートの開発に取り組みます。

※4. 不動産・建設経済局 意見交換会ご説明資料（2021 年 9 月 29 日）より。

※5. 埼玉県さいたま市。地上 5 階建て、延床面積：21,130.64 m²。

※6. コンクリートに混ぜる薬剤の総称。

※7. 2022 年 8 月に性能証明取得済み。

以 上

お問い合わせ先			
大和ハウス工業	広報企画部	東京広報グループ	03 (5214) 2112
太平洋マテリアル	営業本部	混和材営業部	03 (5832) 5218